

日本海洋学会 2016 年度第 7 回幹事会議事録

日時：2017 年 3 月 26 日 13:30～17:45

場所：パレスサイドビル マイナビルーム 2F-U

出席：日比谷会長、神田副会長、石坂、市川、伊藤、小埜、小畑、川合（美）、河野、齊藤、鈴村、津田、東塚、山中、事務局毎日学術フォーラム（小野、平坂）

[2017-2018 年度幹事予定メンバー] 安藤、岡、川合（義）、北出、安田、安中、山田

議題：

1. 議事録承認（伊藤幹事）

2016 年度第 6 回幹事会議事録案を確認し、承認した。

2. 審議事項

(1) 入退会について（小畑幹事）

2016 年 12 月～2017 年 1 月の入退会を承認した。入会 10 名、退会 8 名、2017 年 1 月末の会員数 1685 名。

(2) シンポジウムの後援・協賛等について（小畑幹事）

6 件の後援・協賛等について承認した。

(3) 公募・推薦・周知の依頼について（小畑幹事）

公募・推薦 3 件、シンポジウム・講演などの案内 3 件、転載許諾申請 1 件について、ML 配信その他の対応を行ったことが報告され、承認した。

(4) 2017 年度青い海助成事業審査結果について（鈴村幹事）

2017 年度青い海助成事業について、海洋環境委員会から 1 件の推薦があり、承認した。

(5) 2017 年度海洋環境委員会の構成について（鈴村幹事）

海洋環境委員会について、小埜委員長の就任ならびに 5 名の委員の留任を承認した。

(6) 海洋環境問題研究会会長の交代について（鈴村幹事）

速水会長の退任にともない、梅澤会員が新会長となることを承認した。5 月の評議員会で審議に諮ることとなった。

(7) 2018 年度春季大会以降の大会開催について（鈴村幹事）

2018年度秋季大会を東京海洋大学で開催すること、2019年秋季大会を SCOR Annual Meeting の前後の日程で富山にて開催することを承認した。また、2018年度春季大会についての意見交換を行った。

2017年度 JpGU・AGU 合同大会期間中における総会並びに各種会議の会場案を確認した。受付が開始され次第申し込む予定であることが報告された。

従来と春季大会の開催時期が異なる来年度の幹事会は 5, 7, 9, 11, 1, 3月の6回であることを確認した。

(8) 海の研究編集委員会委員交代について (市川編集委員長)

海の研究編集委員会の河野委員に代わり、新委員として中村知裕会員が推薦され、承認した。

(9) JO 編集委員会委員候補について (石坂編集委員長)

JO 編集委員会の新委員として廈門大学の Zhiyu Liu 教授が推薦され、承認した。

(10) 毎日学術フォーラムとの契約書内容変更について (小畑幹事)

毎日学術フォーラムとの業務委託契約書の変更案が示され、承認した。本年度、会員情報管理 Web システムを導入した際、会員管理基本費用を月額で契約することとしたため、これを反映するための変更である。また、反社会的勢力の排除に関する項目が加えられた。

(11) 会則の変更について (小畑幹事)

定期刊行物の編集委員長について、会則では役員と評議員による選挙で選出された幹事があたるとなっている。定期刊行物の編集作業は重要な会務であり負担も大きいいため事前に注意深い調整が必要となることから、会長が評議員会の同意のもと幹事ならびに編集委員長として委嘱できるよう、さらに JO の外国人編集委員は学会員でなくても会長が委嘱できるよう、会則を変更することが提案された。また、プログラム編成やシンポジウムの募集・審査等の大会運営に関わる作業を含め、幹事の業務負担が増大していることから、幹事を若干名増やすことが提案された。これらについては次回以降の幹事会で引き続き審議することとなった。

細則 4 の第 1 条 4 項の「啓蒙」を「啓発」に変更することを承認した。

(12) 次期幹事の役割分担と沿岸海洋研究会の担当幹事について (鈴木幹事)

次期幹事の役割分担を確認した。また、新たに沿岸海洋研究会担当幹事を設けることとし、北出幹事候補が担当することとなった。

(13) 2017 年度春季評議員会及び総会議事次第案 (小畑幹事)

2017 年度春季評議員会と総会の議事次第案が提案された。次回幹事会で再確認することとした。

(14) 広報委員会（小椋委員長）

広報委員の交代について承認した。新たに野村会員、森岡会員が加わる。

(15) JO の出版について（日比谷会長）

JO の出版について意見交換を行った。今後、幹事会および JO 編集委員会で検討することとなった。

3. 報告事項

(1) 会長（日比谷会長）

役員及び評議員選挙により、10 名の幹事が選出されたこと、加えて川合（義）、北出、山田各会員を会長委嘱幹事候補としたことが報告された。

JpGU-AGU 合同大会について、前年度より約 1300 件多い 5562 件の発表申し込みがあり、そのうち大気水圏科学セクションでは約 600 件増の 1886 件であったこと、日本海洋学会共催セッションへの投稿が 515 件あったことが報告された。

3 月 21－22 日に生物系合同シンポジウムとして海洋生物学シンポジウム、日本プランクトン学会シンポジウム、水産海洋シンポジウム、沿岸海洋研究会シンポジウムが開催されたこと、大型研究計画についてロードマップ 2017 への登録希望を提出したこと、SCOR WG の募集締め切りが 4 月 15 日であること、IAPSO-IAMAS-IAGA 合同大会が 8 月にケープタウンで開催されることが報告された。

(2) 副会長（神田副会長）

学界動向報告について、4 月末までに集めた情報を 6 月発行の NL の原稿としてまとめるとともに、5 月の評議員会・総会の資料として配布することが報告された。

(3) 庶務（小畑幹事）

日本風工学会との意見交換会があったこと、総会開催の通知・委任状を用意したことについて報告があった。4 月初頭にメールによる評議員会で審議の必要な事項を確認した。

(4) 会計（河野幹事）

2016 年度は、13 ヶ月の決算になること、春季大会の支出が多かったこと、名簿発行があることから苦しい会計状況となるため、改善が必要なことが示された。

(5) 編集

① JO（石坂編集委員長）

73 号 2 巻を発行したこと、投稿数ならびに受理数が減少していること、2 つの特集セクションの投稿・受理状況、転載申請 4 件を受理したこと、10 月に投稿された剽窃論文について 4 月 1 日まで著者からの対応を待ち反論がなければ共著者も含めて投稿禁止にする予定であること、まもなくインパクトファクターが公表されること、掲載料

を順調に徴収していること、イランで発行されている **Journal of Oceanography** というアラビア語の雑誌に連絡を取ること、について報告があった。

Sharable link により、**Web** 上の論文閲覧のためのリンクを作成できるようになったことから、学会ウェブサイトリンクを貼ることを考えており、**Springer** と相談中であることが報告された。

② 海の研究（市川編集委員長）

順調に発行していることが報告された。

「海の研究」掲載論文は、国立情報学研究所による電子図書館事業（NII-ELS）により電子化され、**CiNii** で公開されていた。この事業が終了するため、メール審議の結果、今後の掲載論文は平成 17 年度までの掲載論文が公開されている **J-STAGE** で公開することとし、そのための利用申込書を提出したことが報告された。なお、利用が承認されるのは平成 30 年度からの見込みである。平成 29 年度は学会ウェブサイトでのみの公開となる。平成 18 年度から平成 29 年度の論文を **J-STAGE** に移行するかどうかについては、多数の論文の移行作業を外注すると 40 万円近い経費を要するため、今後の検討課題とする。

③ JOS ニュースレター（津田編集委員長）

編集委員長の引き継ぎを行ったことが報告された。今後、受賞などの情報を新編集委員長に知らせるよう依頼があった。

(6) 研究発表（鈴木幹事）

JpGU に合流する形で春季大会を開催することになり、大会期間中の会議室利用料などの負担が増大する。今後について学会の会計的側面からも検討していく必要があることを次期幹事候補に引き継いだことが報告された。

(7) 選挙（山中幹事）

幹事選挙、各賞可否投票、各賞受賞候補者選考委員の選挙の結果が報告された。

(8) 広報幹事（小笠幹事）

JpGU 大会で予定している広報活動について紹介があった。

(9) 海洋環境委員会（鈴木幹事）

海洋環境委員会の名称および役割等について議論した内容について報告があった。委員会の活動内容や海洋環境問題研究会との連携、学会への提言などについて、今後検討していくことが報告された。

(10) 教育問題研究会（伊藤幹事）

サイエンスカフェの開催、東京都教職員研修などの活動内容について報告があった。

(11) 震災対応（神田副会長）

原子力学会の雑誌に寄稿したこと、3月10日に福島大学で成果報告会があったことが報告された。また、1月26日に開催された「福島復興廃炉に貢献する学協会連絡会」公開ワークショップについて、日本海洋学会は欠席したが、内容が報告された。これに加え、秋季大会で震災関連シンポジウム開催を検討中であることが報告された。

(12) 若手支援（神田副会長）

若手海外渡航支援事業に対する応募者がいなかったが、再募集はしないことが報告された。

(13) 海洋生物学研究会（齊藤幹事）

研究会の会員数は現在97名であること、3月21-22日に開催したシンポジウムにのべ160名の参加があったこと、これを機に新たに10名が日本海洋学会に入会したこと、シンポジウム参加者のアンケートを集計中であること、運営委員会を開催したことが報告された。

(14) 2017年度以降の研究発表大会に関わる諸問題検討WG（小畑幹事）

WGとしての役割はほぼ終了したため、解散することが認められた。

(15) 軍事研究と海洋科学を考える談話会について（市川幹事）

会員の呼びかけにより、「軍事研究と海洋科学を考える談話会」を3月20日に開催し、16名の参加があったこと、意見・情報交換のためのMLに51名が登録し、活発な議論がなされていること、ナイトセッション開催などについて検討を進める予定であることが報告された。

次回幹事会：春季大会（JpGU大会と合流）前に開催予定